

透視像

寂光院と祇王寺

碓井 静照

京都の三千院あたりに、平清盛の娘で安徳天皇の母である建礼門院徳子が出家した寂光院があります。ここは紅葉が他の追隨を許さないほど大変すばらしく、茅葺き入母屋造りの御堂がひっそりとたたずんでいて、諸行無常を感じるような静寂さがあると私は感じています。

寂光院から南東方向、タクシーで20分くらいのところは瀬戸内寂聴さんが住んでいる嵯峨野があります。坂道を上がると、山懐に抱かれた小さな茅葺きの寺があり、萱屋根の小さな門を入ると、春は鮮やかな青い苔の庭に楓の木々が芽吹き始め、寺を囲む清冽な青竹の色の中に、藪椿の赤が目にと沁み、誰もがその絶妙な美しさに驚くといわれています。

ここは白拍子・祇王ゆかりの寺で昔、このあたりは化野あだしのといって鳥葬とい

ますか、亡くなった方の遺体を置いておく風習があったのですが、あの辺ももみじがとても綺麗でした。ここは清盛の可愛がっていた白拍子の祇王という二十一歳差の女性が捨てられて出家したところであります。その祇王を出家に追い込んだ仏御前という十六歳の美しい白拍子も、やはり出家しなければならなくなる悲しい物語のあるところで、京都六波羅には美しい歌声や舞姫がいたのかな、そしてここ祇王寺に出家したのかなと名残が感じられるところです。

「萌え出づる 枯るるも同じ 野辺の草
いずれか秋にあわではつべき」 祇王
「輿嵯峨に住みて一人や春の月」

祇王寺・智照尼

この寺の秋の紅葉はこのほか美しい。真っ赤に色づいた楓の葉が、音もなく青い苔の上に散って行く様は、平清盛という天下人の寵愛を受けた女性の深い悲しみであり、祇王たちの運命に一層哀れをさそう。

編集後記



(a)

豪雪被害地区の皆さんにお見舞い申し上げます。昨年の文字は「暑」、この分だと今年は「冷」？ 拙宅のある東京西郊は、いわゆる関東ローム層で、かつては霜柱が十数センチ。公園の池は凍り、石つぶてを投げても割れないほど。すると今は水鳥が浮かんでいますから、この寒さは、さほどではないのかも。

さて、今回の特集は各部の現状を一冊にまとめたかのような感じです。秋に催しが集中したからですが、それぞれ頑張っているのが分かります。医芸歌壇で横田英夫先生は軍医学校で同窓だった沢田又一先生の舞台を歌い、写真部の大武秋笙先生ご夫妻は、夫人が出演している秋葉琢磨先生のすぐ脇の席に。クラブ内の交歓がいつそう進むといいですね。

そういう意味からも、4月の医学学会総会ソシアルイベントは『合同展』ですから、会場での交流を期待しています。